

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	アゼリーアネックス保育園
施設所在地	江戸川区大杉2-10-16

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
STEAM保育を大切にしている当園では、感触遊びを主体的な学びにつながる重要な体験と捉えており、乳児期に多様な感触に触れることが脳の発達を促す点からも、このテーマを大切にしている  
また、小規模園であることを活かし、子どもの反応や発言、思いに丁寧に寄り添うことができる環境が整っている為「もっとやりたい」という気持ちを十分に受け止め、時間が許す限り深めていけることも大きな強みである。この環境を活かし、乳児期に大切な五感を刺激する遊び=感触遊びをテーマに設定した

## 2. 活動スケジュール

令和7年5月～令和8年2月にかけて実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
子どもたちが自分で選べるように、水遊びの玩具や、氷作りの材料を数種類準備した  
氷クレヨン (混色も兼ねて、白・ピンク・緑・黄色など様々な色を準備)  
水遊び (じょうろ、スポンジ、水鉄砲など)  
氷作り (ポンポン、ブロック、ストロー、スポンジ)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

夏季には、水に親しむことを目的に水遊びを行った。じょうろやスポンジ、水鉄砲などさまざまな道具を用いながら、水の冷たさや感触、流れる様子を体感して楽しんだ。水の量や勢いの違いに気づきながら、繰り返し試す姿が見られた。水遊びでは、色水を凍らせた「氷クレヨン」を使用し、溶けながら色が広がったり混ざったりする様子を楽しんだ。時間の経過とともに氷が小さくなる変化や、色の重なりによる違いに気づき、視覚的な変化を体験した。また、カップに好きな素材や玩具を入れて水を凍らせる氷作りも行った。水が氷へと変化する過程に興味を持ち、完成した氷をプールや水の中に入れて溶けていく様子を観察した。「どうしたら早く溶けるか」「どこに置くと溶けやすいか」などを試しながら、試行錯誤する姿が見られた。冬季には、水を入れたバケツを戸外の寒い場所に置き、翌日の変化を観察する活動を行った。あいにく凍るに至らなかったが、どうなるか予想したり、なぜ？を考える経験となった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・水が氷になり、驚いていた⇒保育者や自分の腕に当てる冷たさを感じたり、指で触って感触を楽しんでいた
- ・プールにつけてみると、みるみるうちに氷がなくなってしまい水の中を探す様子や、ストローの穴の中にできた氷に気付いていた⇒どうしたら融けるか…指でなぞったり、手で擦って試しながら夢中な姿が見られた
- ・子どもたちからもっとやりたいという声も聞かれた
- ・保育者が一方的に教えようとするのではなく、問いかけを増やすことで子どもたちの考えや予想外の言葉が返ってきたことで、保育者主導にならないように配慮することが大切だと感じた



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、保育者の予想以上に、子どもたち自身の意見や考えを言葉として表現する姿が見られた。素材の変化や違いに気づき、自分なりの発見を伝えようとする姿から、探究する力の育ちを感じることができた。

2歳児クラスでは、自分の考えや感じたことを少しずつ言葉にできる姿が増えてきている。保育者との一对一のやり取りだけでなく、小さな発表の場を設けたり、「こうしたらどうなるかな?」と予想する時間や、その予想を実際に確かめる過程を作ることによって、さらに学びを深めることができると考える。

1歳児クラスでは、保育者が準備した氷に触れて楽しむ経験を中心に行った。2歳児クラスでは、氷づくりの段階から子ども自身が関わり、さらに氷クレヨンへと発展させたことで、活動の連続性や発展性を意識した保育につなげることができた。普段は新しい遊びや感触遊びにやや抵抗のある子ども、主体的に参加する姿が見られたことは大きな成果であった。

今回は夏の活動として実施したが、今後は季節にとらわれず、日々の保育の中で自然現象への興味や関心を育てられるよう、環境構成や問いかけを工夫していきたい。